

平成19年4月29日

〒590-0494  
京都大学原子炉実験所  
助手・小出裕章様

〒177-0041 4-25  
蒼天社政治情報センター  
代表・石川鐵也



### 公開論議における結論Ⅲ

平成19年4月20日第587-19-78313-5号配達記録郵便での「公開論議における結論Ⅱ」に対する小出論(4月24日付)を拝読しました。

本論議の目的は、「公開論議における結論」で述べたように、小出論を明確にするとともに、原子力政策の不明瞭な部分をも明らかにすることであり、愚痴り合うことではありません。小出さんにもご理解いただければ幸いです。

#### — 記 —

#### 1. [原子力発電の代替エネルギーについて]

小出さん、まず、現状を直視しましょう。今般もまた、原子力発電の即刻廃炉が可能であるという事実は記されておりませんでした。即刻廃炉が可能であると立証できないのですから、「原子力発電の即刻廃炉」は非現実的であることを認めてください。その上で、太陽等エネルギーを含め、どのようにすれば代替エネルギー源が確保できるのかを検討しましょう。

#### 2. [安定供給について]

小出さんも理解されたように、同メーカー、同機種等の一斉停止の可能性はどのような発電方法にも存在します。スリーマイル島事故の後に、加圧水型炉が永久に停止している訳ではないし、東電のデータ捏造に関連して東電の原発が廃炉に追い込まれた訳でもありません。東通村の風力発電同様、「一時停止」なのです。

「安定供給は契約者の総意」と言っても過言ではないでしょう。「現状における安定供給と安全対策は電力各社に課された使命」と断じられます。安定供給問題は「どうでもいい議論」ではありません。ご理解いただければ、終了しましょう。

#### 3. [核燃料サイクルについて]

高速増殖炉「もんじゅ」におけるナトリウム漏れ事故が発生した後の数年間、使命を忘れた関係者は、「石川さん、今は大きな台風が連続してきているようなものです。じっとして、通り過ぎるのを待つしかありません」と語り、「“もんじゅ”は床の間の飾りじゃない。原因が究明された段階で、国民に再稼働の必要性を説くべきだ。停止させたままでは国民の役に立つはずもない。今は世間が注目しているのだから、是々非々論を展開させるには好機だ」といった反論には、「そんなことをしたら、『嘘つき動燃が開き直るのか』とマスコミから袋だたきにされますよ」などと逃げるありさまでした。

しかし、昨今は異なります。多くの関係者が「もんじゅ」の必要性を再認識し、一日も早い再稼働に向けて頑張っているのは周知の事実です。

また、去年の「長崎平和宣言」に記された文言（核兵器は科学者の協力なしには開発できません。科学者は、自分の国のためだけでなく、人類・・・）と同様意見を有する人々は、長崎前市長や広島市長等を招き、非協力宣言を行う計画を立てておりました。その一部セクションにおいては、数年前から広島、長崎の日に全員で黙祷し、核兵器の開発には協力しない旨を誓っているそうです。

そういった人々に言わせれば、「平和利用に使用はするが、核兵器に使用するプルトニウムなど1グラムも存在しない」となるのです。

小出さん、言葉に詰まる度に「あらゆる技術に付随する本性を、今現在の核技術と一緒に論じることは誤りです。今、そのような人がいる、いないかのような議論は歴史の大きな流れの中では意味がありません」と述べてしまったら、何らの事実も語れなくなりますよ。一つひとつの事実を積み重ねなければ、真実（全体的事実）は見えてこないのです。「事実は、知識や経験に比例する」。そういった真理をも習得してください。

新たな原子力発電所建設等の影響によって、ウランも高騰していきます。小出さんが認められたように「石炭量に匹敵」するだけでもよいのです。

#### 4. [高レベル放射性廃棄物の処理・処分について]

私が小出さんと同じ事を述べたら、「相変わらずの自己主張、ご自身の思い込みを相手に押し付けています」と書かれるでしょうね。せっかく結論に至ったのですから、愚論を繰り返すべきではないと考えます。現状を直視してください。

小出さん、下記事実(1)~(10)を無視したかのように、「まずは、どうにもできないゴミを生む原子力を放棄すべきと私は初めから主張しています」などと言ったところで詮無いことです。地層処分場が破壊されるような地震があれば、地上保管場も破壊されるでしょう。そうした場合、地上の方がより危険と考えるのが妥当ではありませんか。当該問題の解決に直結しない小出論①~⑩は了承できません。

(1)日本にも「高レベル放射性廃棄物」は現存しております。

(2)「高レベル放射性廃棄物」は危険なものです。

(3)危険性が認められるからこそ、国は、安全性、経済性、防災問題、補償問題等をも考慮したうえで対処しなければなりません。

(4)国は、議論を尽くす事なく（とは言うものの、当時、興味を持つ国民は少なかった。小出さんは何を）、宇宙、深海、深地層の中から地層処分を決定しました。

(5)北海道・幌延及び岐阜県・東濃地区において、関する調査、研究施設の建設に着工していますが、未だに具体的な建設仕様書さえ公表できる段階にありません。

(6)議論を尽くす事なく、深地層処分場の建設に反対する人々の意見や、無責任な関係者の安易な妥協によって、法律が設定され（この時点において、小出さんは何らかの提言をされたのだろうか）、処分機関が設立されました。

(7)処分機関は、「高レベル放射性廃棄物」の輸送方法等、関する詳細を明らかにせぬままに、公募を開始しました。また、構成員の多くは出向者であり、応募地での討論会に参加し、反対派を説得するなどは職務外と考えています。

(8)原子力発電関連施設を有しない都府県においては、関する知識さえ修得しようとしません。しかし、管内市町村が応募した瞬間、知識なきままに（複数の県回答書で立証されている）反対を表明しました。

(9)47都道府県の住民が反対するだけでは何らの解決にも繋がらず、子孫に負の遺産を残す結果となるのは確実だが、これまで、推進する側は推進ありき、反対する側は反対ありきの言動を繰り返すだけで、「では、どうするのか」といった議論にまでは発展しません。

(10)多くの報道機関は、知識がないのか、作為的なのか、なぜ、どうして、ではどうするのか、といった要諦部については触れようともしません。 等々

こういった状況下において、小出さんは、私の主張、私の行動に対し、「私から書くことは特にありません。石川さんはお好きなようにおやりください」と述べ、「『テロリストの精神構造と同様』などと石川さんから言われる筋合いもありません」と気分を害しているようですが、これもまた、「小出さんの余裕なき言い訳」と断じざるを得ません。

小出さん、都会に住んでいるのは都会で生まれた人々だけではありません。過疎地出身の人々、過疎地出身の子孫も住んでいるのです。過疎地で採れたものが都会でも消費され、都会の企業によって製造された物が過疎地でも使用され、消費されてもいるのです。

ですから、「高レベル放射性廃棄物を生み出した責任は都会だけに」あるかのような小出論に同調できるはずもありませんし、議論相手が、理不尽なことを述べれば、それに反論することは当然と考えています。

にもかかわらず、「お好きなように」「言われる筋合いもありません」と主張されるようでは議論などできるはずもありません。

高知県・東洋町の選挙結果は残念ですが、国や事業者の積極性を欠いた拘わり方からいっても「当然の結果」と断じられます（私自身、高知県とは議論していますが、東洋町には拘わっておりません）。

私は、国や事業者の不作為に疑問を感じ、誰かがやらなければ、との思いからこれまで活動してきましたが、小出さんは何のために発言し、行動されているのでしょうか？自分の為でしょうか？それとも、国家・国民の為に活動されているのでしょうか？国の「ありき政策」を批判しておきながら、小出さん自身も「ありき論」を繰り返すようでは、国と50歩100歩、自分の為だけに活動しているように思えてなりません。

小出さん、本当に「地上保管」が最良の方法と信じておられるのであれば、国、都道府県及び市町村等に対しても、「地上保管」の必要性を具体的に説いてください。新しく建設しなければならない「地上保管施設」が、六ヶ所村に存在する中間貯蔵施設と同様の仕様で良いのか、どこに、どのようにして建設すべきなのかを、具体的に説いてください。そうすることによって、初めて見えてくる事実もあるのです。「将来を憂えての活動」と自負されているのであれば、即実践すべきでしょうが・・・「筋合いもない」などと言わずにご理解いただければ幸いです。

以上